

～理学部新入生の保護者の方へ～
新入生の保護者の皆様からよく頂戴するご質問と回答

平成 31 年 4 月 12 日
理学部学生支援委員会

さる 4 月 4 日の入学式後に「新入生保護者説明会」を開催いたしました。保護者の皆様には多数のご出席を賜り、誠にありがとうございました。ご参考のために、今回の説明会を含め、これまで開催された過去の同説明会の席上でよく保護者の皆様から受けましたご質問とそれに対する答を以下に掲載いたします。

質問一覧

- Q 1. パソコンを購入する必要がありますか。
生協からパソコン販売の案内がありましたが、どのようなスペックのパソコンが必要ですか。
- Q 2. 奈良女子大学の年間スケジュールはどうなっているのでしょうか。
- Q 3. 他大学のように今後も保護者説明会や個別相談会はありますか？
- Q 4. 他大学との単位互換制度はどの程度ありますか？
- Q 5. 奈良女子大学のキャリア教育について教えてください。
- Q 6. 「中国語」科目は卒業要件の外国語科目の単位になりますか？
- Q 7. 単位取得もれないか、担当の先生からの履修チェックはありますか？
- Q 8. 数物科学科でのコース選択は学生の希望通りになりますか？
- Q 9. 数物連携コースの履修についてですが、「数学」と「物理」の 2 つの専門分野を学ぶということですが、「数学」と「物理」の二つの学問にまたがって学んで、どちらも中途半端になることはないのですか？
- Q 10. 学科内の転コースではなく、異なる学科の間での所属変更（転学科）はあるのですか？転コースや転学科は何回生の時点で可能ですか？
- Q 11. 実験・実習等で帰宅が遅くなることはありますか。
- Q 12. 教育実習先は母校に行くことになるのでしょうか。
- Q 13. 数物科学科で取得できる教員免許の教科の種別（数学・理科）は所属するコースごとに決まっていますか？
- Q 14. 早期卒業生の実績はありますか？
- Q 15. 最後の 1 年間は基本的に卒業研究に専念するそうですが、早期卒業の場合はどうなるのですか？早期卒業の場合、いつ卒業研究のテーマを決めることになるのですか？成績優秀者、早期卒業者の卒業研究のスケジュール、卒業研究の進め方、本人が実施したい卒業研究テーマの決定方法について知りたいです。
- NEW Q 16. 留年の状況について教えてください。
- NEW Q 17. 6 年一貫教育プログラムについて教えてください。他大学との互換性はあるのですか？
- NEW Q 18. 他大学大学院への進学状況について教えてください。
- Q 19. 修士課程への進学はいつ頃決める必要がありますか。
- Q 20. 大学院入試の難易度はどのくらいですか？

Q 1. パソコンを購入する必要がありますか。

生協からパソコン販売の案内がありましたが、どのようなスペックのパソコンが必要ですか。

A 1. 理学部の学修においては、実験・実習のレポート・文書作成やデータの処理、インターネット情報検索など、IT時代を反映して、パソコンや情報機器を使った作業の必要性は高い状況です。既に個人用パソコンをお買い上げの場合、その文脈で最大限ご活用いただければ学修の上で大変役立つのではないかと存じます。

一方で、本学ならびに理学部では、インターネットに接続されたパソコン等を整備し、学生に使用を開放しており、学術情報センターや大学会館内に設置のパソコンを使用できます。また当該授業を履修する場合は理学部の計算機実習室等の利用権限も与えられ、授業外時間に使用することもできます。4 年生になり研究室に配属されて卒業研究に取り組む際には、各研究室には必要なパソコンの設備は当然あります。

従って、必ずしも入学時の今の時期に急いでパソコンを購入する必要性はありません。学修の進展とともに自分に必要なパソコンの性能・スペックもわかってきます。その上で、個人で所持することが必要である、あるいは便利である、と学生自身が感じた時点で購入しても遅くありません。パソコンや情報機器類は性能の進化が急速であり、短期間に性能が陳腐化するという事情もありますので、その観点からも必要性が出た時期に購入を考慮してもよいと思います。

以上の点を踏まえてご対応いただければと存じます。

Q 2. 奈良女子大学の年間スケジュールはどうなっているでしょうか。

A 2. 平成 30 年度の年間スケジュールは、本学の Web 内の「学年暦」

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/affairs/calendar/index.html>

をご覧ください。

Q 3. 他大学のように今後も保護者説明会や個別相談会がありますか？

A 3. 保護者説明会は入学式の時のみです。個別相談については、個々の学年担任、あるいは指導教員の判断で必要に応じて行われる程度で、まれです。

Q 4. 他大学との単位互換制度はどの程度ありますか？

A 4. 学部での単位互換は、「奈良県大学連合」と「放送大学」のみとなります（大学院ですと、実施校が増えます）。その他に単位互換制度ではありませんが、協定校への交換留学の場合は、先方で取得した単位を本学科目での認定が可能です。

Q 5. 奈良女子大学のキャリア教育について教えてください。

A 5. 本学の教育の柱として「キャリア教育科目」があります。卒業後の就職や進学などの将来設計について、各自のプランづくりに早期から取り組むための「キャリアプラン科目」、学生のニーズの多い教員免許等の資格取得のための「教職科目」「資格関連科目」を開設しています。キャリア教育科目についての詳細は本学の Web 内の「キャリア教育」

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/carrier/index.html>

をご覧ください。

Q 6. 「中国語」科目は卒業要件の外国語科目の単位になりますか？

A 6. 卒業要件の「語学」としては認められておりません。理学部の卒業に必要な外国語科目に指定されているのは、英語、ドイツ語、フランス語のみです。卒業のためには、これらの科目の中から、合計8単位を取得することが必要です。中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語を履修した場合や、英独仏語を8単位を超えて履修した場合の単位は、「語学科目の単位」としてではなく、「教養教育科目の中の基礎科目群の単位」という扱いになります。（4月のガイダンス時に学生に配布される「全学教育ガイド」を参照下さい）

Q 7. 単位取得もれがないか、担当の先生からの履修チェックはありますか？

A 7. 成績表をそれぞれの学生に手渡しする際に、履修状況をチェックしています。学科・コースによっては専用の履修状況調査表を作成し、卒業要件科目の履修状況を逐一確認している場合もあり、全体的に見てかなり手厚い履修チェックが行われていると思います。しかし、履修計画の作成や単位取得状況の点検など大事なことについては他人任せにせず、自分で責任をもつことが大切です。教員の側も、あくまでも学生の自主性・自律性を損なうことのない範囲で指導・アドバイスを行っています。

Q 8. 数物科学科でのコース選択は学生の希望通りになりますか？

A 8. 各コースへの配属については、希望通りに配属されています。

Q 9. 数物連携コースの履修についてですが、「数学」と「物理」の2つの専門分野を学ぶということですが、「数学」と「物理」の二つの学問にまたがって学んで、どちらも中途半端になることはないのですか？

A 9. 数別連携コースでは、数学または物理のどちらかに重点を置いて、それに加えてもう一方の専門の考え方を取り入れた形で履修を行っています。数学と物理学は、実はお互いの領域がかなり重なり合い、互いに強く影響しあっていますし、この「学際領域」の研究は注目を集めています。数物連携コースは、特にこの2分野をまたいだ専門知識を身に着けた人物を育成することを目的としたコースです。このような数物の2分野横断的な専門知識を持つことは、現代社会のニーズであると私達は考えております。

Q 10. 学科内の転コースではなく、異なる学科の間での所属変更（転学科）はあるのですか？転コースや転学科は何回生の時点で可能ですか？

A 10. 転コースは同じ学科内での移動ですので、最低限履修しておくべき少数の科目が転コース規定で指定されている程度で、かなり自由に移動ができます。この定められている条件を満たせば転コースは可能になりますので、転コースは比較的容易です。一方、転学科は転コースよりも専門分野が大きく変わるため、成績評価などの選考を実施することがあり、転籍時までの専門科目の履修状況など、無理なく標準修業年限内で修了する履修計画を組んでもらう観点から、転コースよりハードルが高くなります。理学部全体を通じて転コース、転学科の実績は以下の通りです。

転コース

H30 年度 2 回生開始時 4 名、3 回生開始時 3 名、4 回生開始時 3 名

H29 年度 2 回生開始時 1 名、3 回生開始時 3 名

H28 年度 2 回生開始時 1 名、3 回生開始時 1 名

H27 年度 2 回生開始時 1 名

転学科

H30 年度 2 回生開始時 1 名、3 回生開始時 1 名

H29 年度 2 回生開始時 1 名

なお、「転学部」の事例もごく少数ありますが、これは転学科より一層ハードルは高く、例外的です。

以上まとめますと、「転コース<転学科<転学部」の順にハードルは高くなります。移動するための成績の審査が厳しくなることと、カリキュラムの違いにより 4 年間で卒業がこの順に難しくなっていく傾向が強い、というのが理由です。移動時期は転コース、転学科、転学部のいずれも 1 回生終了時 (= 2 年生開始時) ないし 2 回生終了時 (= 3 回生開始時) が一般的ですが、遅くなればなるほどハードルは高くなりますので、この点ご注意ください。

Q 1 1. 実験・実習等で帰宅が遅くなることはありますか。

A 1 1. 実験・実習の場合、科目によっては時間割でいう 5 コマ目 (～17 時 50 分) まであります。但し、実験・実習の進捗状況によってはそれより遅くなる場合もあります。4 回生になり卒業研究に従事するようになると、特に何時から何時までというように決まっているわけではないので、帰宅が遅くなってしまうこともあります。よろしくご理解下さい。

Q 1 2. 教育実習先は母校で行うことになるのでしょうか。

A 1 2. 教育実習の実習先は基本的には本学の附属中等教育学校で実習を行うことになります。

Q 1 3. 数物科学科で取得できる教員免許の教科の種別 (数学・理科) は所属するコースごとに決まっていますか？

A 1 3. 取得できる免許の種類は

http://www.nara-wu.ac.jp/rigaku/02_license.html

に掲載していますが、それぞれの教科の教員免許は、実際にはそれぞれの種別の「免許取得に必要な単位を修得する」ことによって取得できるものです。所属する「コース」によって免許の教科の種別が確定してしまう性質のものではありません。

Q 1 4. 早期卒業生の実績はありますか？

A 1 4. 若干名の実績があります。

Q 1 5. 最後の 1 年間は基本的に卒業研究に専念するそうですが、早期卒業の場合はどうなるのですか？早期卒業の場合、いつ卒業研究のテーマを決めることになるのですか？成績優秀者、早期卒業者の卒業研究のスケジュール、卒業研究の進め方、本人が実施したい卒業研究テーマの決定方法について知りたいです。

A15. 早期卒業する場合は、学期ごとの成績確認・指導の際に、本人の意向を確かめつつ、卒業研究を早期に履修できるように科目の履修等を計画的に行い、早期に卒業研究を始めることになります。早期卒業のためには成績優秀と認められなければなりません、成績優秀者となると1年間に取得できる単位数の上限が緩和されます。その上で、上回生に配当されている科目を順次履修する計画を本人が立て、履修していくことになります。各コースで定められている研究室配属（卒業研究開始）の要件を満たせば研究室に配属され、卒業研究を開始可能となります。配属先研究室はコース毎に決め方が設定されていますが、（早期卒業かどうかにかかわらず）基本的に本人の希望に基づいて決定されます。研究室配属後まもなく配属先研究室において卒業研究の研究テーマが決まり、早期卒業の場合でも1年間の卒業研究を行うことになります。

従って、例えば3年半での卒業を目指す場合には、2回生の後期開始時点で研究室配属（卒業研究開始）になります。早期卒業は、3年間での修了も制度的には可能ですが、実績としては1名の学生が3年半で修了しているのみです。

早期卒業ではありませんが、通常より半年早く研究室配属要件を満たし、半年の海外留学を行った事例は数例あります。

NEW Q16. 留年の状況について教えてください。

A16. 取得単位数の多少にかかわらず、3回生まで留年はありません。化学生物環境学科では4回生の開始時に規程の単位数に到達していない場合、卒業研究あるいは課題研究を開始することができませんので、この時に留年が決まります。また、数物科学科、化学生物環境学科とも4回生終了時に卒業要件単位が不足した場合には卒業できませんので、これ以降は留年となります。

6つのコースとも留年する学生数は毎年1～2名程度で、一人も留年しない学年も多いです。留年する学生の一般的な傾向として、授業への出席率があまりよくありません。留年しないためにも規則正しい生活習慣を身につけ、授業には休むことなく出席することが望まれます。

NEW Q17. 6年一貫教育プログラムについて教えてください。他大学との互換性はあるのですか？

A17. 「6年一貫教育プログラム」は奈良女子大学独自の教育システムとして平成29年度入学生より開始されたプログラムで、学部の4年間と大学院博士前期課程（修士過程）の2年間の教育研究をスムーズに連結することを目的としています。3回生終了時の成績をもとに6年一貫教育プログラム生に認められた学生は、大学院で認められた科目から10単位までを4回生時に受講することが可能ですし、奈良女子大学大学院進学後はその単位が大学院の単位として認定されます。6年一貫教育プログラム生は大学院入学試験における筆記試験を免除され、学生寮に入寮している学生は大学院進学後も引き続き入寮が許可されます（通常、大学院進学後は学生寮を退寮しなければなりません）。また、特に成績が優秀な学生については、大学院入学後に入学金に相当する額の奨学金が授与されます。プログラム生に認定されなかった場合でも、「先取り履修」を許可された学生は大学院の講義を4単位まで履修することが可能ですし、大学院進学後は大学院の単位として認定可能です。

本プログラムは本学大学院で開講される高度な学問体系を3年間かけて履修することを可能としています。本プログラムは奈良女子大学独自のものですので、他大学大学院と履修単位などの互換性はありません。

NEW **Q 1 8.** 他大学大学院への進学状況について教えてください。

A 1 8. 理学部では 60～70%の学生が大学院前期課程に進学します。多くの学生は奈良女子大学大学院へ進学しますが、一部の学生（各コースで数名程度）は他大学の大学院へ進学しています。

Q 1 9. 修士課程への進学はいつ頃決める必要がありますか。

A 1 9. 大学院入試の時期は、毎年、本学 Web に掲載（4 月以降に掲載になります）の「募集要項」にその年度に実施される大学院入試の出願時期が発表されます。大学院入試合格後、大学院の入学手続は入学前月の 3 月となり、ここが意思を決定する最後の時期になるかと思います。

Q 2 0. 大学院入試の難易度はどのくらいですか？

A 2 0. 標準的に履修してきた学生が大学院進学を希望する場合、ほとんどの人が実際に大学院に進学しています。年度により若干変動がありますが、例えば生物科学コースのこれまでのケースでは、院に進学できない受験者は、「なし」または「多くても 2 名程度」の少数にとどまっています。他のコースも同様の状況です。一言で言うと、理学系全体を通じて大学院入試の合格率は高い、といえます。

また、これまで、大学院進学希望者のうちの大多数は本学の大学院に進学を希望し、実際に入学してきています。